

I. 転倒災害及び腰痛を防ぐため「見える化」

現場で長尺重量物を搬入する工事で

荷台上の可搬式親綱設備で安心感の見える化

トラックへの荷の積み込み・荷降ろしをする場合、工場や倉庫では常設の安全带を取付ける設備がありますが、屋外の工事現場では常設設置が難しいのが現状です。

この可搬式安全带取付設備は

- ・現場にある 単管パイプやクランプを使用
- ・人力で運べる単管差込み式ベースプレートのみ作成
- ・トラックの荷の高さにより親綱設置高さが変えられるクランプ使用



「この高さで転倒墜落したら安全带が効きますか。」の問には「効きません。」が答です。でも「設置が難しいから何もしません。」ではなく 実際に使ってみると

親綱に安全带を掛ける ひと手間 ひと呼吸が焦る気持ちが抑えられる。
雨で濡れて滑りやすくても、親綱が張ってあることで安心感がある。
親綱と昇降設備設置と使用が当たり前の作業となる。
安全意識高揚につながっています。



親綱取付設備の単管パイプ
荷に合わせてクランプ固定しています。



単管差込み式ベースプレート
タイヤで踏んで安定させています。